

あざれあ 静岡県男女共同参画センター

静岡県静岡市

センター交流会議をはじめ 市町村、教育委員会、 大学などとの連携による 講座・イベントが充実

静岡県は明治時代に我が国で初めて女性が公選民会の投票を行ったという歴史を持ち、いわば男女共同参画の先陣を切った土地柄。平成11年度から初の投票が行われた7月30日を「男女共同参画の日」に制定し、毎年、講演会やワークショップ、男女共同参画関連の表彰や事業報告、パネル展示など内容充実のフェスティバルを、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で開催しています。

「あざれあ」は平成5年に開館しました。男女が共に気づき、共に担う男女共同参画社会の実現を目指す拠点として、積極的に学習、情報・調査・研究、相談、交流事業を推進しています。講座内容も、男女共同参画社会の必要性に気づき、考え、さらに地域でリーダーとなって活躍する人材の育成などを見据え、情報交換や交流も含めた企画が豊富にあります。「あざれあ」開館時には、以前から県内各地で活動していた団体や一般県民で組織された「センター交流会議」が設立され、県下の団体や県民の交流、研修事業、地域講座を協働で進めてきました。これに加えて、県内市町村と共催で講座やワークショップを行う「地域カレッジ」、教育委員会と共催の「教育セミナー」、大学との協働による出前講座やフォーラムの実施など、他の機関・団体などとのネットワークを重視し、多様な講座やイベントを展開しています。

一般サークルとの コラボレーションを強化し、 新しい男女共同参画の風を

平成14年度からは新たに「県民企画講座」を立ち上げ、市民グループや団体から男女共同参画のテーマに則した講座の企画を募集し、独創性のある講座を協働により開催しています。15年度に行ったのは「子育て」のテーマが2本と「再

就職」のテーマが1本でした。

「内部のアイデアだけでなく、広く地域で活躍されている人たちの知恵や力を借り、育てるという発想もあり、なにか新しい動きが生まれるのではないかとこの期待がありました。これまで取り組んできた“協働”がこのようなかたちで実現したので、今後はさらにさまざまな人たちの企画を取り込んで講座を開催したいと思っています」と、男女共同参画室事業推進スタッフ主幹の伊藤良子さん。大きな手応えをつかみつつあるようです。

また、同じく参画室事業推進スタッフの山崎泰さんはこういいます。

「“県民企画講座”もそうですが、“地域カレッジ”も3年目を迎え定着してきました。今後は女性だけでなく男性にも、あるいは留学生などにも発信できるテーマを考え、さらに幅広くやっていきたいと思っています。これからの世代を育てるという意味で若い層にも受け入れられる募集の仕方なども考えていきたいですね」

情報誌の編集も、 「あざれあ」の講座を 受講した人から公募

「あざれあ」では、こうした講座を告知し、参加募集や結果報告、さまざまなお知らせを発信する男女共同参画の広報誌「エポカ」を隔月発行しています。「エポカ」には県民から公募した通信員がいて、手渡しで配布しながら、男女共同参画を推進しています。また年2回、「あざれあ」の講座を受けた後にNPOを立ち上げた人や起業した人など、人物取材を中心にした雑誌形式の情報誌「ねっとわあく」も発行。こちらは「あざれあ」の講座を受講した県民から編集員を公募して、企画・編集・制作が行われています。「皆さんに参加してもらうことが大切。活発に意見交換なども行い、一から作り上げてもらいます」（伊藤さん）センターからの押しつけでなく“民”の力を尊重する「あざれあ」ならではの事業といえるでしょう。



静岡県男女共同参画センター「あざれあ」の伊藤良子さんと、山崎泰さん



静岡県男女共同参画センター「あざれあ」



一般に開放されている広々とした1階ロビー

●施設概要

「あざれあ」は7階建ての単独ビル。大ホール、小ホール、会議室10、研修室3、生活関連実習室、団体交流室、こどもの部屋、多目的実習室、音楽室、図書室、雑誌コーナー、展示室・展示コーナー、レストランなどがある。

●事業例

男女共同参画のリーダーを養成する「あざれあゼミナール」、審議会・委員会の委員を務める女性が学ぶ「政策決定参画カレッジ」、国際情勢など今を知る「参画協働カレッジ」、民間から講座企画を公募する「県民企画講座」、静岡県の各市町村と協働で講座やワークショップを行う「地域カレッジ」などを展開。そのほか、女性の悩みやDVの相談事業、「男女共同参画の日・県民フェスティバル」などイベントやフォーラムの開催、情報誌の発行など。

●住所&交通アクセス

静岡県静岡市馬淵1-17-1

JR静岡駅北口より西へ徒歩約10分

<http://azarea.pref.shizuoka.jp/>

●問い合わせ

電話 054-255-8440

info@azarea.pref.shizuoka.jp



メンバーの職種バラエティも強み！ きめ細やかな視点を持った「働く女性」のセミナーを開催

W.I.T.H. net しずおか

鈴木正乃さん 村松由香子さん 静岡県静岡市

W.I.T.H. net しずおかのこれまでの活動

主婦や会社員などさまざまな立場の女性の情報交換のためのサークル立ち上げ、交換ノートや隔月情報誌を発行。

平成6年、女性サークルの一部のメンバーで「W.I.T.H. net しずおか」を設立。「働く女性」をテーマに、勉強会やセミナーを企画・実施。

静岡市女性会館を拠点に、「働く女性のパワーアップ」をテーマに年1回セミナーを展開。

平成15年、男女共同参画センターの県民企画講座募集に応募。企画が採用されて女性の再就職セミナーを開催。

同年、その企画が新たに豊田町で採用され、内容をアレンジしてセミナーを実施。

「情報交換」サークルから「情報発信」するサークルへ

「現代を生きる女性には今、仕事、家庭、社会、それぞれのシーンでしなやかに主張する知恵が必要です」

これは、「W.I.T.H. net しずおか」のプロフィールと活動概要を記したシートの冒頭の言葉です。平成6年に発足以来、働く女性を取り巻く多岐にわたる課題について、勉強会やイベント、セミナーを開催してきました。会社員、公務員、団体職員から自営業の人、家庭を持つ人、独身のするなど異なる職種や家庭環境の女性たちが集まったグループです。

最初は主婦や会社員などさまざまな立場の女性の情報交換のためのサークルから始まり、10年前はお互いにeメールもない時代、交換ノートや手づくりの情報誌を発行するのが主な活動。「でも、全国各地にメンバーも増え、だんだん物足りなくなってきた、集まってイベントを企画するなど顔が見える活動がしたいと思うようになったんです」とメンバーの一人、鈴木正乃さん。

このサークルのうち数人が「W.I.T.H. net しずおか」を立ち上げ、まずは自分たちが知りたいと思う税金や年金の勉強会から始めました。

センターの「県民企画講座」に採用されて新たなチャレンジ

その後、「働く女性」をテーマにしたセミナーや企業に対するマーケティングの自主企画プレゼンなどを経験。力をつけてきたここ数年は、静岡市女性会館を拠点として、「働く女性のパワーアップ」をテーマに、専門家を招いたセミナーを年1回のペースで開催してきました。そして平成15年、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」の県民企画講座募集に応募。企画が採用され、「女性のための再就職支援セミナー もう一度働きたいあなたへ」というテーマで開催が実現したのです。あらためて働きたいと思っている女性に向けて、「社会を知る」「自分を知る」「環境を整える」「活動を始めよう」といったステ

ップを設定し、テーブルトークを交えたユニークなスタイルの講座を実施しました。

県という新たなフィールドで行ったこの企画は、進め方や人々の反応にこれまでと違うところもありましたが、もう1つ違ったのは市内の女性たちだけでなく、別の自治体の関心を引いたことです。静岡県豊田町から依頼があり、同じテーマをアレンジして女性の再就職セミナーを開催することに。企画そのものが地元エリアを飛び出して、広く認められた瞬間でした。

テーマごとにメンバーの経験や個性が生きる活動のかたち

メンバーは、これまで増減がありましたが、現在9名で、10年前の発足時からのメンバーが半分ほど。毎月1、2回のミーティングを行い、企画のラフプランを固めた後は、メールのやりとりなどで調整を進めていきます。「セミナーの内容により、不思議と1回ごとに中心となるメンバーが自然に固まってくるんです。スタートから代表者もいないままやってきたんですが、それぞれの経歴や個性を生かしてできる今のかたちが、とてもいいと思ってます。今回はあまりできなかったから次回は頑張ろう、と思ったりしますしね」と、もう一人のメンバーの村松由香子さん。

メンバー構成のバラエティと女性ならではのきめ細やかな企画、そして仕事や家事や子育てと上手に両立させながらポジティブに活動を続ける皆さんの姿勢に引かれたのか、セミナーを受けたことがきっかけで、新たに加入した人もいます。

10周年を迎えた平成16年春、メンバーで「棚卸し」のミーティングを行い、これまでを総括し、これからを話しあったとか。女性を取り巻く多様な社会のなかで、鈴木さんや村松さんたちの「しなやかな主張」が、今後どのような企画を生んでいくか期待されます。



「あざれあ」で平成15年11月に開催した「女性のための再就職支援セミナー もう一度働きたいあなたへ」の様様